

1. 教育目標

「人とつながる音楽家」の育成

- ① 実技力のさらなる進化を希求する生徒の育成
 - ・将来、音楽専門家として活躍するために必要な基礎力をすべての生徒が培い、その上に自らの専門性を高め、国内外のさまざまな音楽シーンをリードする音楽家の育成を目指す。
 - ・音楽を通してのキャリア教育を意識するとともに、それぞれの授業における目標を明確にし、生徒自身が自らの目標を高く掲げ、その実現に向けて自発的に音楽に取り組み、自己調整していく力を育てる。
- ② これからの時代の中で、自己実現に向かうことのできる学力を持つ生徒の育成
 - ・生徒が自らを社会の中で生かし、日本をはじめ広く世界で社会に貢献するために、ことばの力をはじめ、基礎となる教養を醸成する。
 - ・主体的で対話的な深い学びを実現する授業等を通して、生徒自らが学びを獲得していけるよう工夫する。
 - ・授業の目的・目標を明確にし、校内外の指標や評価を積極的に求め、常に授業改善に努め、進路実現にも対応できるよう、授業の質を高める。
- ③ 音楽家が人とつながっていくために不可欠な人間力の育成
 - ・教育活動のすべての場面を、生徒自らが豊かな感性・情操を培う機会と捉える。
 - ・音楽が自他や社会に影響を与え、豊かな人間、よりよい社会の実現に寄与できるといった、音楽の力に生徒が気づき、その発信者となれるよう働きかける。
 - ・生徒が世界の中の京都の文化的な風土・特性を十分に理解し、伝統の上に立ちながら、自分の音楽を創造していく気概を持てるような機会を作る。

2. 学校経営方針

- 教職員が互いに敬い合い、適切な「相互依存」の形を追究しながら、教育活動を推進する。
- 全ての教育活動において目標の設定と必要な情報の共有を行い、協同・連携を促進することで、効率的・効果的に業務を遂行する。
- ひとりひとりが、特長ある「公立高校唯一の音楽高校」における学校経営への参画の意識を持って、日々自身の専門性の研鑽と幅広い教養の獲得に努める。

3. 重点課題

- ◎新教育課程での教育活動の充実
 - ・R5の教科・科目、取組の振返りと改善
 - ・2年次の海外研修を要素に加えた「総合的な探究の時間」の研究と実践
 - ・R7年度大学入試に向けた学力向上への取組
- ◎「高等学校 音楽科」で学ぶことの意義の外部への見せ方・届け方の再考
 - ・音楽に興味関心のある生徒・児童と本校とを繋ぐ「場」の開拓と創造
 - ・財産である「堀音生」の魅力の醸成と発信
 - ・京都市の「音楽」の拠点としての「堀音」のダイナミズムの発信
- ◎「人が人と学ぶ」学校のために、ICTや外部人材を活用する教育活動の展開
 - ・R6年度入学生の一人一台端末所持を最大限生かす仕掛づくり
 - ・あらゆる教育活動の場面で、キャリア形成に資する人との出会いの提示
 - ・ICTを活用してのグローバルな音楽的交流の模索
- ◎効率的・効果的な働きかたと財政運営の促進
 - ・新校内組織での業務推進と点検
 - ・生徒募集や財政面での外部音楽系団体等との連携強化と外部リソースの活用
 - ・音楽専門学科の学校事務を「つかさどる」事務部との協働による財政運営の促進